



次、来た、中、山羊、お前、一飲み、突然、橋、上、恐ろしい、顔、現れる、突き出た、鼻、今度、食べて、大きな、口、開けて……。

これは左の絵本(石井式・漢字の絵本応用編『三匹の羊』より)に出てくる漢字および漢字まじりの言葉です。百字ほど

できている文章の中で、約四分の一が漢字になっています。これだけの漢字を幼児がスラスラ読めるとしたら、読書のスピードはまったく違ってくることは一目瞭然でしょう。

この中でも「中・上・出た・大きな・口」など、小学校一年生で学ぶ漢字はともかく、「現れる・恐ろしい」などの字も読めるとすれば素晴らしいことでしょう。しかし特徴のある字ほど覚えやすいことから考えてみれば、このような字を読むことがそれほどむずかしいことではないことは前述した通りです。

また「山羊・突然」のような熟語も、丸ごと覚えてさせてしまえば簡単です。

「山羊」は子どもにとって、その姿(存在)が生き生きと目の前に浮かぶ動物ですし、この言葉を見れば「『羊』という字が入っているから、羊の仲間の動物なんだな」ということも推察するでしょう。

「突然」の場合は「これは『急に』という意味なんだよ。ほら、今までいなかった怪物が出てきただろう」と説明してやれば、幼児にも理解できます。

私たちは絵本はひらがなと思い込んでいますが、そこに大きな誤りがあるわけです。絵本も漢字まじりのものを選ぶべきです。ひらがなだらけの絵本でしたら、上から紙を貼って漢字で書いてみたらいいでしょう。